

2 0 0 2 年 3 月 期
決算説明資料

2 0 0 2 年 5 月 1 6 日
信越化学工業株式会社

目

次

（連結決算）

・業績の概要（連結・単独）	1 頁
・決算の主要項目（連結・単独）	2 頁
・セグメント別売上高・営業利益	3 頁
・有機・無機化学品事業の推移・現況	4 頁
・電子材料事業の推移・現況	5 頁
・機能材料その他事業の推移・現況	6 頁
・シンテック社の業績概要	7 頁
・信越半導体グループの業績概要	8 頁
・比較損益計算書	9 頁
・比較貸借対照表	10 頁
・キャッシュフロー計算書	11 頁
・キャッシュフロー・設備投資額の推移	12 頁
・2003年3月期業績予想（連結・単独）	13 頁

（単独決算）

・比較損益計算書	14 頁
・比較貸借対照表	15 頁
・部門別売上高比較	16 頁

業績の概要（連結・単独）

	連 結			単 独			連単倍率	
	2001年 3月期	2002年 3月期	増 減	2001年 3月期	2002年 3月期	増 減	2001年 3月期	2002年 3月期
売 上 高	8,075	7,751	(4.0%) 324	4,610	4,653	(0.9%) 43	1.75	1.67
営 業 利 益	1,127	1,147	(1.8%) 20	570	646	(13.3%) 76	1.98	1.78
経 常 利 益	1,158	1,170	(1.1%) 12	622	670	(7.7%) 48	1.86	1.75
当 期 純 利 益	645	685	(6.2%) 40	343	399	(16.3%) 56	1.88	1.72
総 資 産	12,658	12,884	226	6,754	6,599	155	1.87	1.95
株 主 資 本	7,150	8,121	971	4,578	4,782	204	1.56	1.70
株主資本比率	56.5%	63.0%	6.5ポ ント	67.8%	72.5%	4.7ポ ント		
1株当たり								
当期純利益	153.58円	162.93円	9.35円	81.32円	94.85円	13.53円		
株 主 資 本	1,700円	1,930円	230円	1,083円	1,137円	54円		
年間配当金	/	/	/	12.0円	12.0円	0.00円		
R O E	9.4%	9.0%	0.4ポ ント	7.9%	8.5%	0.6ポ ント		
R O A	9.5%	9.2%	0.3ポ ント	9.3%	10.0%	0.7ポ ント		

（注）ROAは総資本経常利益率。

決算の主要項目（連結・単独）

（億円）

	連 結		単 独	
	2001年 3月期	2002年 3月期	2001年 3月期	2002年 3月期
設 備 投 資 額	968	815	421	362
減 価 償 却 額	708	709	274	288
有 利 子 負 債 残 高	1,914	1,778	533	513
金 融 収 支（ 益 ）	14	2	39	33
研 究 費	259	282	156	166
期 末 従 業 員 数	19,398人	16,456人	3,228人	2,755人
為替レート：1-12月平均	107.8円	121.5円	-	-
（US\$）4-3月平均	109.7円	125.4円	109.7円	125.4円

（注）1．2002年3月期（連結）設備投資額、減価償却費の内訳

	<u>設備投資額</u>	<u>減価償却費</u>
	億円	億円
有機・無機化学品	261	237
電子材料	367	323
機能材料その他	189	151

2．セカンドライフ支援制度による退職者数 1,559人（単独 370人）

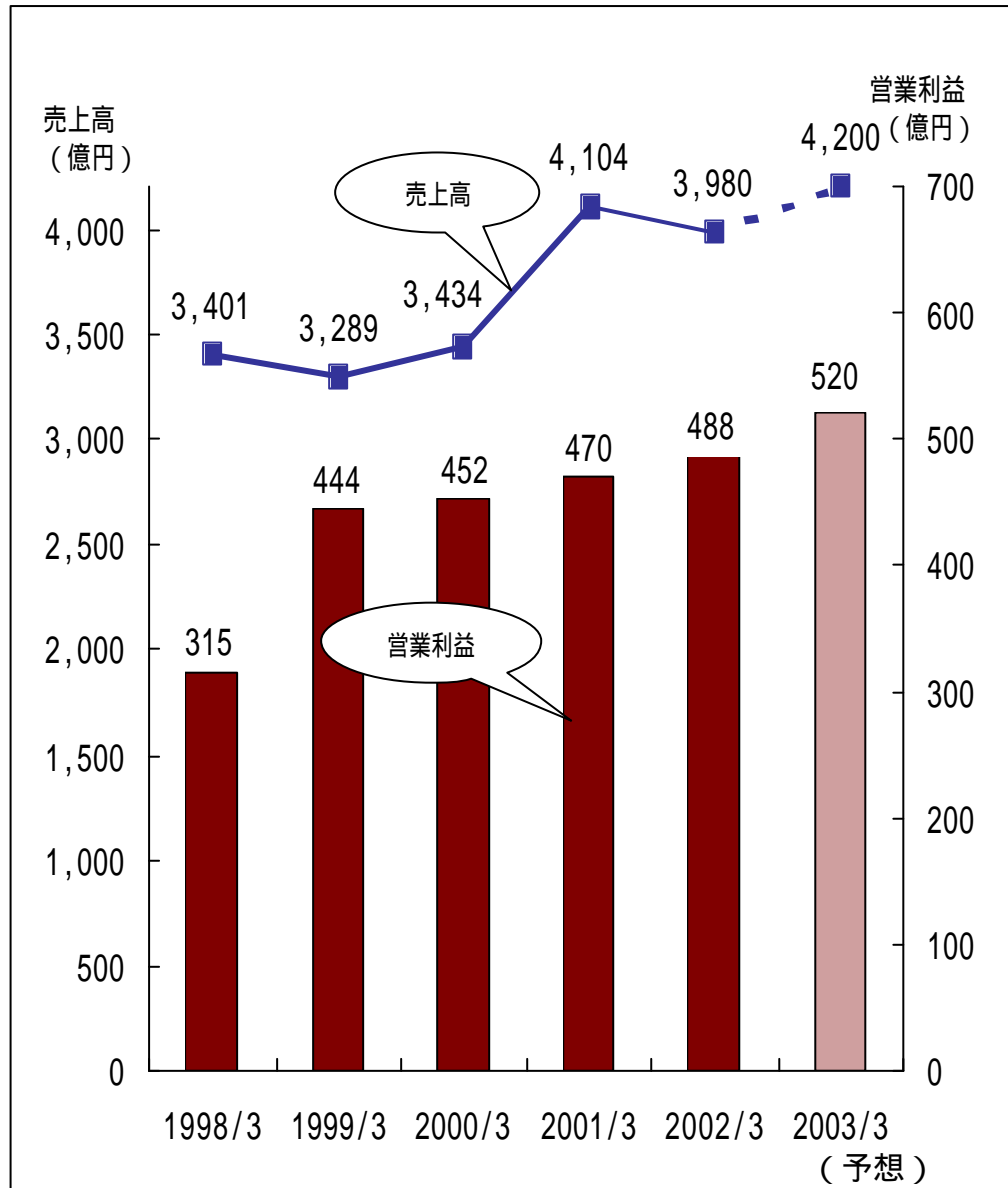
3．1-12月平均の為替レートは、海外子会社の損益を連結する際に使用。

セグメント別売上高・営業利益（連結）

（億円）

	売上高			営業利益		
	2001年 3月期	2002年 3月期	増減	2001年 3月期	2002年 3月期	増減
有機・無機化学品	4,104	3,980	(3.0%) 124	470	488	(3.8%) 18
塩ビ系	2,081	1,998	83	136	158	22
シリコン系	1,352	1,199	153	219	206	13
その他	670	783	113	115	124	9
電子材料	2,587	2,265	(12.5%) 322	364	337	(7.4%) 27
半導体シリコン	2,047	1,764	283	258	264	6
その他	540	500	40	106	73	33
機能材料その他	1,384	1,507	(8.9%) 123	293	322	(9.8%) 29
合成石英	415	571	156	181	231	50
レア・アース、PBN、 LT等機能材料	324	218	106	81	54	27
その他	644	717	73	31	37	6
消 去	-	-	-	0	0	0
合 計	8,075	7,751	(4.0%) 324	1,127	1,147	(1.8%) 20

有機・無機化学品事業の推移・現況（連結）



塩ビ

米国塩ビは2001年初に天然ガスの記録的高騰による基礎原料高と販売価格の低迷に見舞われ、その後も厳しい状況が続いた。しかし、シンテック社は米国内で強力な販売力を生かすだけでなく、輸出にも注力し、年産能力145万トンのテキサス工場と、2001年11月に年産30万トンから59万トンの増設が完了したルイジアナ工場のフル稼働を継続した。欧州のシンエツPVCも堅調に生産と販売を継続。

- 国内塩ビ事業は、国内市場に回復が見られぬまま推移し、東南アジア向け輸出市況も2001年末まで軟調であった。
- この結果、塩ビ部門の売上は僅かに前期を下回ったが、営業利益は増加。

シリコン

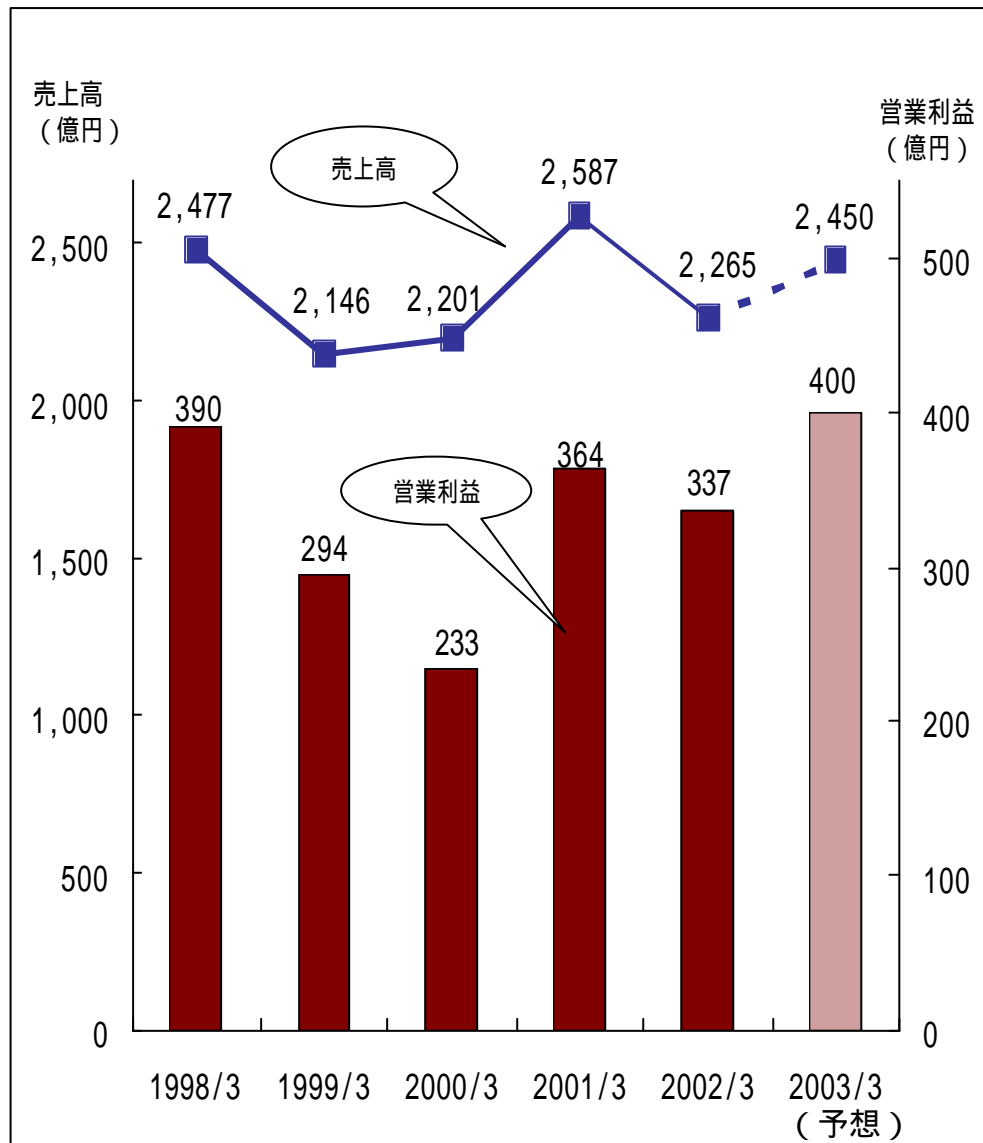
- トイレタリーや医薬品製造向けは堅調なものの、電機・電子業界向けの不調で国内は低調。輸出も前期比減。この結果、シリコン部門の売上及び営業利益は、ともに前期を下回った。
- タイに製品生産工場建設開始。GEとの中間体生産合弁会社と2003年の同時スタートを計画。
- 米国に機能性シランの工場を本年完成予定。

セルロース誘導体は医薬品向けが好調、自動車部品用等工業用も堅調で販売を伸ばした。

2002年5月に酢酸ビニル・ポバール事業子会社の再編成を実施。

(注)海外子会社は12月決算のため1～12月期を算入。

電子材料事業の推移・現況（連結）



半導体シリコン

需要は2001年4月以降大きく減少したが、9月以降回復。昨年2月から商業生産を開始した次世代の300mmウェーハは、立上がり直後から順調に生産・販売量を増加させた。また、SOIウェーハや熱処理ウェーハ等の特殊ウェーハも収益に着実に貢献。この結果、半導体シリコン全体では売上は減少したものの、営業利益は前期を上回った。

電子産業用希土類磁石

ハードディスク・ドライブ向けの需要が全般的に振るわず、上期販売が減少したが、下期は回復に転じた。

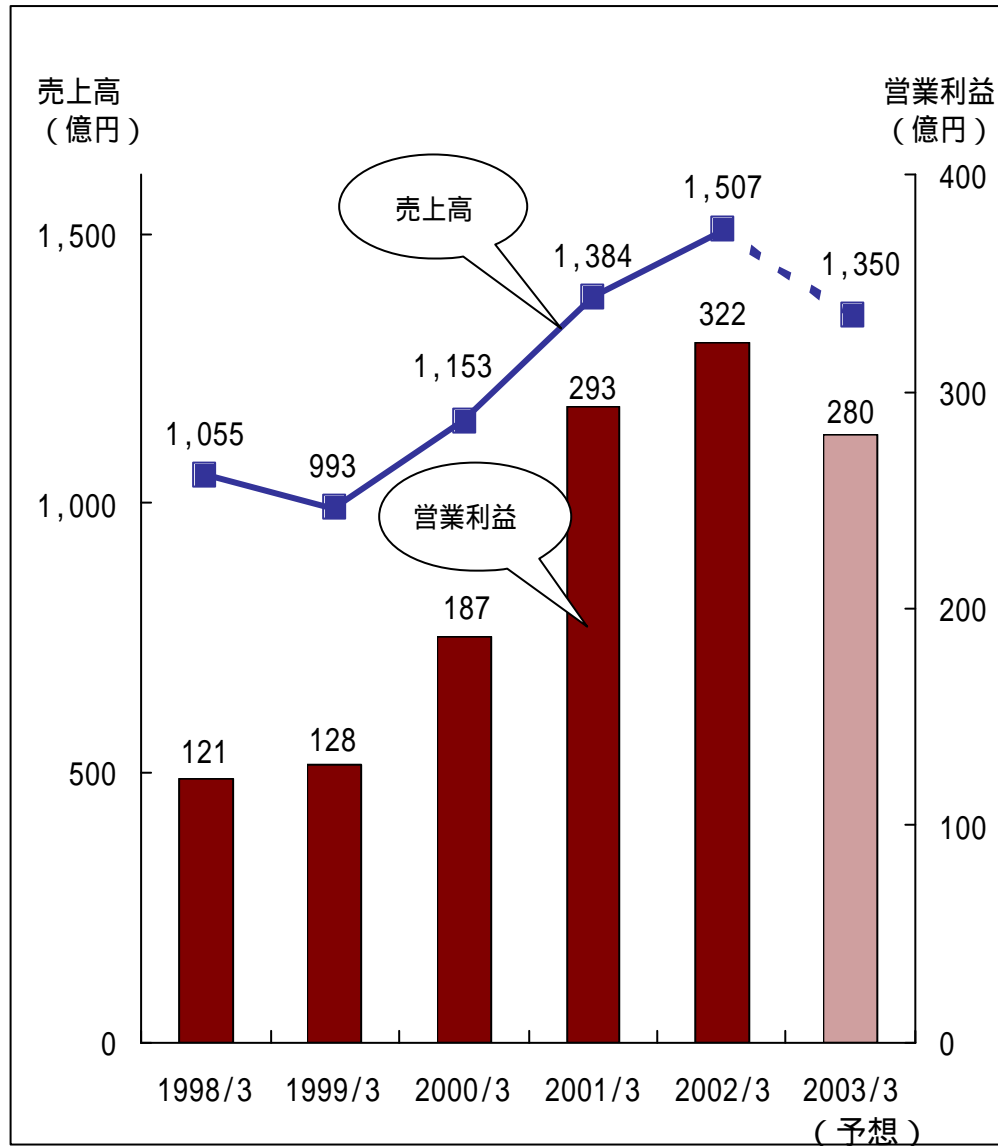
電子産業用有機材料

電子産業用有機材料は、半導体デバイス市況の影響を受け販売が減少。現在は回復傾向。

フォトレジスト

フォトレジスト製品は半導体デバイスメーカー主要ユーザーの大幅減産の影響を受け、上期販売が減少したが、本年に入り回復局面。

機能材料その他事業の推移・現況（連結）



合成石英

・光ファイバー用プリフォームは、期前半は世界的な光ファイバーの需要増に支えられて市況がひっ迫したが、期後半には米国等の光ファイバー需要減が市況を軟化させた。

こうした中で、当社は鹿島臨海工業地帯に光ファイバー用プリフォーム新工場を建設し供給能力を増加させ、また、国内やアジア、欧州等への販売に注力し、出荷を大きく伸ばした。

合成石英の別の用途である、液晶用大型マスク基板も堅調に推移。

・この結果、合成石英の売上及び営業利益は前期に比べ大幅に増加した。

酸化物単結晶（LT）

携帯電話向けの需要減により低調。

希土類磁石

光ピックアップ向けや携帯電話向けなど一般用途向け希土類磁石は各分野とも需要が低迷し、販売は減少した。

シンテック社の業績概要

Shintech Incorporated

	2000年12月期		2001年12月期	
	百万US\$	億 円	百万US\$	億 円
売上高	1,138	1,227	968	1,177
税引前利益 (経常利益)	173	186	160	195
当期純利益	116	125	104	126
純資産	1,161	1,333	1,265	1,670
総資産	1,347	1,546	1,443	1,904

- 2001年の米国塩ビ業界は、米国内販売の不振・販売価格の低迷に加え、年初には天然ガス、エタンの記録的高騰による基礎原料高もあり、米国同業他社は業績を公表している会社全社が赤字となった極めて厳しい年であった。
- しかしシンテック社は市況の動向を的確に捉え、米国内販売と同時に輸出にも注力し、2000年12月に完成した30万トンのルイジアナ新工場も含め、フル稼働・フル販売を行って左記の利益をあげた。
- 更に、2001年11月にはルイジアナ新工場の残りの29万トンも順調に立ち上げ、フル稼働・フル販売を継続中。
- この結果、2001年度の利益は前期に比べ円ベースで過去最高益を記録。

信越半導体グループの業績概要

信越半導体グループ〔連結業績〕

(信越半導体・SEHアメリカ・SEHマレーシア・SEHヨーロッパ・SEH台湾)

	2001年 3月期 億円	2002年 3月期 億円
売上高	1,967	1,701
経常利益	176	174
当期純利益	90	93
純資産	974	1,204
総資産	3,393	3,331

- 世界の半導体市場は2000年第4四半期をピークとして、2001年には急速な下降局面に入る。
- 当社の半導体ウエーハ事業もその影響を受けたが、次世代の12インチウエーハ、並びに特殊ウエーハ等の幅広い製品群を持つ強みを生かし、左記の通り当期純利益で増益を達成。
- 12インチは2001年2月に他社に先駆けて月産2万枚で量産を開始。その後生産能力を増やし現在は月産7.5万枚。収益に大きく貢献。
- 主力の8インチの出荷数量は2001年8月にピークに対して4割近く落込んだ。その後出荷数量を毎月増やし、2002年3月にはピーク比でマイナス10%まで数量を戻した。
- 6インチ以下の小口径も2001年の9月を底として徐々に回復。

(注) 子会社は12月決算数値を連結

比較損益計算書（連結）

（億円）

	2001年 3月期	2002年 3月期	増 減	増減率
売 上 高	8,075	7,751	324	4.0%
売上原価	6,036	5,724	312	
販売費・一般管理費	912	880	32	
営 業 利 益	1,127	1,147	20	1.8%
営業外損益	31	23	8	
経 常 利 益	1,158	1,170	12	1.1%
特別損益	70	39	31	
税金等調整前当期純利益	1,088	1,131	43	3.9%
法人税・住民税・事業税	417	438	21	
少数株主利益	26	8	18	
当 期 純 利 益	645	685	40	6.2%

2002年3月期

特別利益 : 退職給付信託設定益 51億円

特別損失 : 特別退職加算金 80億円（セカンドライフ支援制度による特別加算金）

固定資産除却損 10億円

比較貸借対照表 (連結)

(億円)

	2001年 3月末	2002年 3月末	前期末比		2001年 3月末	2002年 3月末	前期末比
流動資産	<u>7,053</u>	<u>6,926</u>	127	流動負債	<u>3,544</u>	<u>3,285</u>	259
現金・預金	2,212	2,339	127	支払手形・買掛金	1,119	973	146
受取手形・売掛金	2,213	1,931	282	社債・借入金	857	1,136	279
有価証券	998	1,075	77	未払金・未払費用	905	867	38
たな卸資産	1,183	1,196	13	未払法人税等	406	139	267
繰延税金資産	240	222	18	その他	258	171	87
その他	207	163	44	固定負債	<u>1,721</u>	<u>1,240</u>	481
固定資産	<u>5,605</u>	<u>5,959</u>	354	社債・転換社債	613	343	270
有形固定資産	<u>4,222</u>	<u>4,558</u>	336	長期借入金	441	296	145
建物・構築物	1,557	1,664	107	繰延税金負債	192	235	43
機械装置・運搬具	1,948	2,075	127	退職給付引当金	280	152	128
その他	718	819	101	その他	196	214	18
無形固定資産	34	35	1	負債合計	5,265	4,525	740
投資その他の資産	<u>1,349</u>	<u>1,365</u>	16	少数株主持分	243	239	4
投資有価証券	1,089	1,110	21	資本金	1,102	1,103	1
繰延税金資産	160	142	18	資本準備金	1,190	1,190	0
その他	100	113	13	連結剰余金	4,932	5,565	633
				その他有価証券評価差額金	97	61	36
				為替換算調整勘定	95	285	380
				自己株式	76	84	8
				資本合計	7,150	8,121	971
資産合計	12,658	12,884	226	負債・少数株主・資本合計	12,658	12,884	226

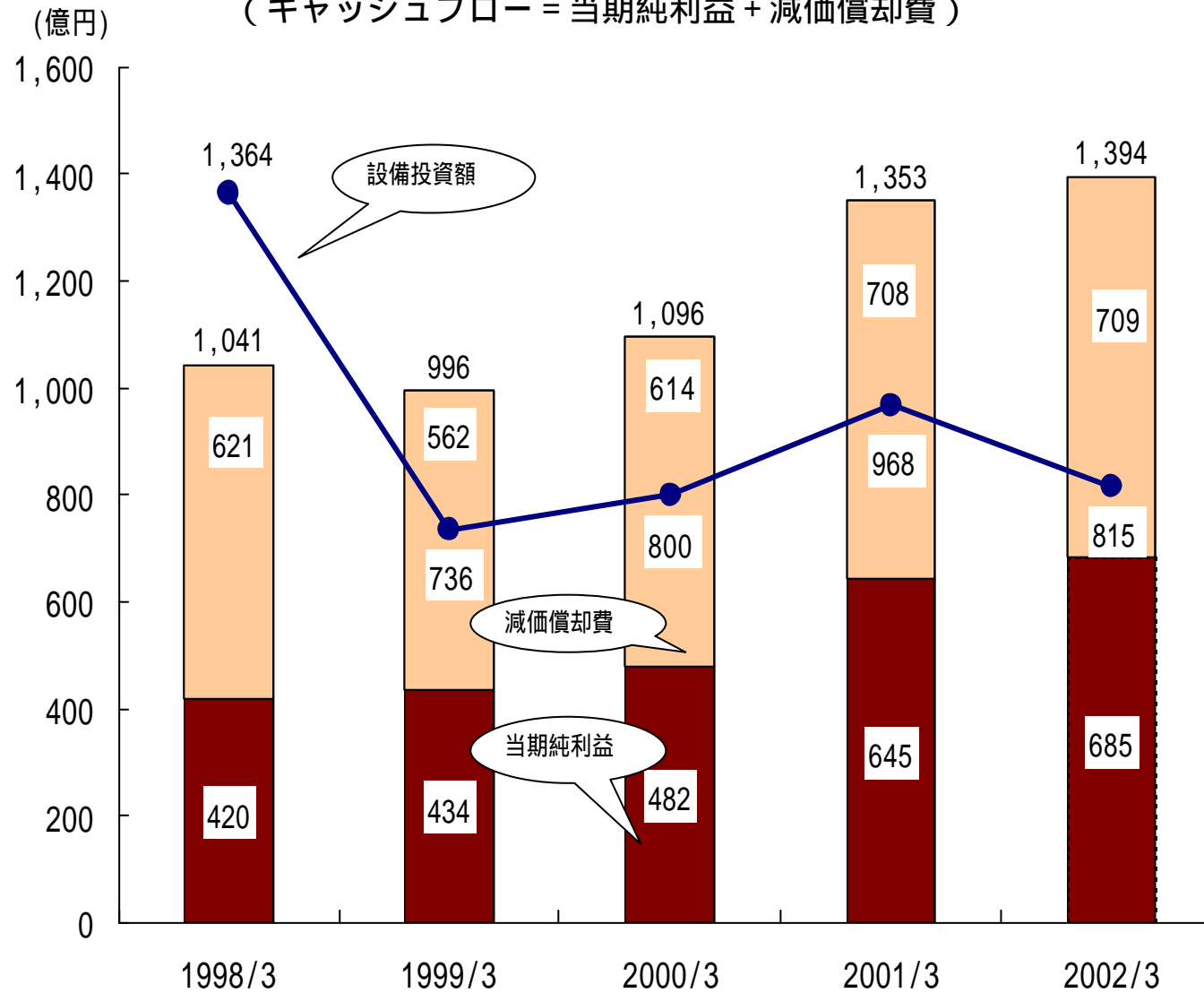
キャッシュフロー計算書 (連結)

(億円)

	2001年 3月期	2002年 3月期	増 減
営業活動によるキャッシュフロー			
税引前当期純利益	1,088	1,131	43
法人税等支払額	387	630	243
減価償却費	708	709	1
その他	13	24	37
計	1,422	1,186	236
投資活動によるキャッシュフロー			
設備投資支出	883	830	53
金融債ほかの購入	6	507	501
その他	17	63	46
計	872	1,274	402
財務活動によるキャッシュフロー			
社債・借入金増減()額	678	187	491
配当金支払額	46	50	4
その他	20	13	33
計	704	250	454
換算差額ほか	165	109	56
現金・現金同等物増減額	11	229	240
現金・現金同等物残高	2,727	2,498	229
有利子負債残高	1,914	1,778	136

キャッシュフロー・設備投資額の推移（連結）

（キャッシュフロー = 当期純利益 + 減価償却費）



2003年3月期 業績予想（連結・単独）

	連 結				単 独			
	上 期		通 期		上 期		通 期	
	億 円	前期比(%)	億 円	前期比(%)	億 円	前期比(%)	億 円	前期比(%)
売 上 高	3,970	0.2	8,000	3.2	2,350	3.7	4,800	3.2
営 業 利 益	595	0.2	1,200	4.6	330	3.1	665	2.9
経 常 利 益	600	0.6	1,220	4.2	340	2.7	690	2.9
当 期 純 利 益	360	4.0	730	6.5	200	2.5	405	1.5
1株当たり当期純利益	85.57円	4.0	173.52円	6.5	47.54円	2.5	96.27円	1.5
1株当たり年間配当金					6.00円	-	12.00円	-

比較損益計算書（単独）

（億円）

	2001年 3月期	2002年 3月期	増 減	増減率
売 上 高	4,610	4,653	43	0.9%
売上原価	3,710	3,670	40	
販売費・一般管理費	330	337	7	
営業利益	570	646	76	13.3%
営業外損益	52	24	28	
経常利益	622	670	48	7.7%
特別損益	46	0	46	
税引前当期利益	576	670	94	16.3%
法人税・住民税・事業税	233	271	38	
当期利益	343	399	56	16.3%

2002年3月期

特別利益 : 退職給付信託設定益 5.1億円

特別損失 : 特別退職加算金 5.1億円（セカンドライフ支援制度による特別加算金）

比較貸借対照表（単独）

（億円）

	2001年 3月末	2002年 3月末	前期末比		2001年 3月末	2002年 3月末	前期末比
流動資産	4,091	4,095	4	流動負債	1,659	1,539	120
現金・預金	1,396	1,506	110	支払手形・買掛金	796	761	35
受取手形・売掛金	1,488	1,505	17	社債・借入金	142	242	100
有価証券	429	391	38	未払金・未払費用	412	372	40
たな卸資産	423	424	1	未払法人税等	233	97	136
その他	355	269	86	その他	75	67	8
				固定負債	517	278	239
固定資産	2,663	2,504	159	転換社債	183	183	0
有形固定資産	1,191	1,262	71	長期借入金	208	88	120
建物・構築物	393	404	11	退職給付引当金	126	7	119
機械装置	531	566	35				
その他	267	292	25	負債合計	2,176	1,817	359
無形固定資産	28	24	4				
投資その他の資産	1,444	1,218	226	資本金	1,102	1,103	1
投資有価証券	714	555	159	資本準備金	1,116	1,116	0
自己株式	76	-	76	利益準備金	65	68	3
その他	654	663	9	剰余金	2,198	2,543	345
				その他有価証券評価差額金	96	36	60
				自己株式	-	84	84
				資本合計	4,578	4,782	204
資産合計	6,754	6,599	155	負債・資本合計	6,754	6,599	155

部門別売上高比較（単独）

（億円）

部 門	2 0 0 1 年 3 月 期	2 0 0 2 年 3 月 期	増 減
有機化学品部門	1,679	1,708	29
無機化学品部門	60	58	2
電子材料部門	1,833	1,684	149
機能材料部門	772	830	58
国際事業部門	266	373	107
合 計	4,610	4,653	43
〔参考〕輸出合計	(38%) 1,735	(43%) 1,991	256

（ ）内は輸出比率を示す。

過去 1年の信越グループの主な展開

- 2001年5月 信越半導体(株)、(株)東芝、住友電気工業(株)の3社は共同で、世界最大の1,100 K の蓄積エネルギーを持ち、温度20 K (- 253)前後での運転が可能な高温超電導マグネットを開発したことを発表。
- 2001年6月 フォトレジストなど電子機能性材料の研究開発を担当する、「新機能材料技術研究所」を新設。
- 2001年6月 定時株主総会開催。ダウ・ケミカル前会長のフランク・P・ポポフ氏が取締役(社外取締役)に就任。
- 2001年6月 米国の大手製薬会社「アボット・ラボラトリーズ」から医薬用セルロース製品に「15年連続品質優秀賞」を受賞。7,000社を超えるサプライヤーのうち数社だけの名誉。
- 2001年8月 1単位の株式数を1,000株から100株に変更。
- 2001年8月 米国テキサス州フリーポートに、年産1万トンの機能性シラン新工場建設を決定。投資額は60億円、2002年完成予定。
またタイでは、アジア・シリコンズ・モノマー社から原料供給を受けてシリコン製品の生産・販売を行う100%出資の「シンエツ・シリコンズ・タイランド社」を設立。投資額は70億円、2003年完成予定。
- 2001年9月 米同時多発テロに対し、米国の信越グループ各社から米赤十字社に義援金36,000ドルを寄付。
- 2001年10月 茨城県の鹿島臨海工業地帯に建設を進めていた、光ファイバー用プリフォーム工場が商業生産を開始。
- 2001年10月 タイのアジア・シリコンズ・モノマー社が建設工事を開始。
- 2001年11月 シンテック社第二工場(米国ルイジアナ州)第2期工事完了。第1期分と合わせ59万トンの新工場が操業を開始。この新工場完成によりシンテック社の生産能力は既存のフリーポート工場(テキサス州)と合わせ、204万トンとなった。
- 2002年2月 シンテック社(米国)が、米国のボーデンケミカル&プラスチック・オペレイティング・パートナーシップが保有するアディス工場(ルイジアナ州、年産27万トン)を買収。
- 2002年2月 肥料事業のコープケミカル(株)への譲渡に合意。
- 2002年3月 当社の半導体封止材料・放熱用シリコングリース及び信越半導体(株)のシリコンウェーハが、世界最大の半導体メーカーである米インテル社のPQS賞(Preferred Quality Supplier Award)を受賞。
- 2002年5月 ユニチカ(株)と共同で行ってきた酢ビ・ポバール事業を統合し、日本酢ビ・ポバール(株)を発足。
- 2002年5月 事業の存続と製品の安定供給を維持するため、塩化ビニル樹脂の国内向け現行販売価格の値上げを決定。